

平成26年度北海道農産物鑑定研修会

日時：平成27年1月27日(火)10:00

場所：北農ビル19階(札幌市)

本年も全道9地区の各従たる事務所(JA等)を代表する検査員140名が一堂に会し、日頃の鑑定の腕を競い合いました。

主 催 者 挨 捶



一般社団法人 北海道米麦改良協会

岡本英俊 専務理事

生産現場の最前線で、公平かつ適切な検査業務の遂行に対する謝辞に続き、平成26年産の作柄に触れ、小麦のカビや穂発芽の発生や米の未熟粒・青死米等の多発など、検査に大変苦労した年であったが、逆に程度統一の重要性を再認識した年でもあったと振り返り、更に、農産物検査は農産物の物流の基本であり、JAS法に基づく精米表示の根拠や各種制度資金交付の要件にも活用されるなど、消費者・流通業者からも信頼性と公平性の確保が求められていると強調しました。

また、昨年に農林水産大臣より「業務改善命令」という行政処分を受けたことから、北海道産農産物の信頼失墜を回避するためには検査員自らが改善意識を強くもち、関係法令や業務規程を遵守し、内部点検の強化を徹底するなど、参加者が地域のリーダーとして一層気を引き締め、同僚・後輩検査員に対し、指導的役割を發揮することも期待したいと締めくくりました。

来賓挨拶



北海道農政事務所 農政推進部
業務管理課 森田宏美 課長

農産物検査の目的は農産物の公正かつ円滑な取引と、農家経済の発展と農産物消費の合理化であり、JAS法や交付金の数量払いの根拠等に使用されているので、今回の鑑定研修会や日頃の検査で研鑽した適正な品位判定はもとより、検査業務は最後の事務処理まできっちりやることが責務であり、北海道農産物の評価を高めることに繋がる旨のご挨拶を頂きました。

研修会風景



研修会風景



鑑定方法等説明



検査部

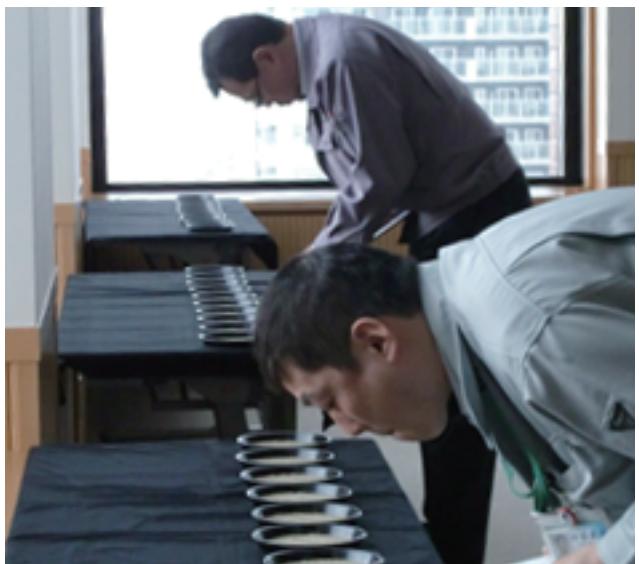
横野 行夫 技監

鑑定風景

<玄米>



<玄米>



<小麦>



<小麦>



<大豆>



<大豆>



原等級発表



検査部

米陀 真 技監

鑑定講評、鑑定結果報告



検査部

内海 範雄 技監

鑑定成績

平成26年度農産物鑑定研修会 表彰者

平成27年1月27日

各部門	各賞	所 屬	氏 名
玄米の部	最優秀賞	JA オロロン	長谷川 剛
	優秀賞	JA あさひかわ	岩崎 康郎
	優秀賞	JA 北いぶき	岡部 大地
小麦の部	最優秀賞	JA ところ	佐藤 孝
	最優秀賞	JA 摩周湖	村山 克久
	優秀賞	JA 大樹	高橋 将史
大豆の部	最優秀賞	JA 今金	坂上 信彦
	優秀賞	JA ピンネ	藤村 康紘
	優秀賞	JA 新篠津	本吉 智治

敬称略

部門別表彰者

<玄米の部>



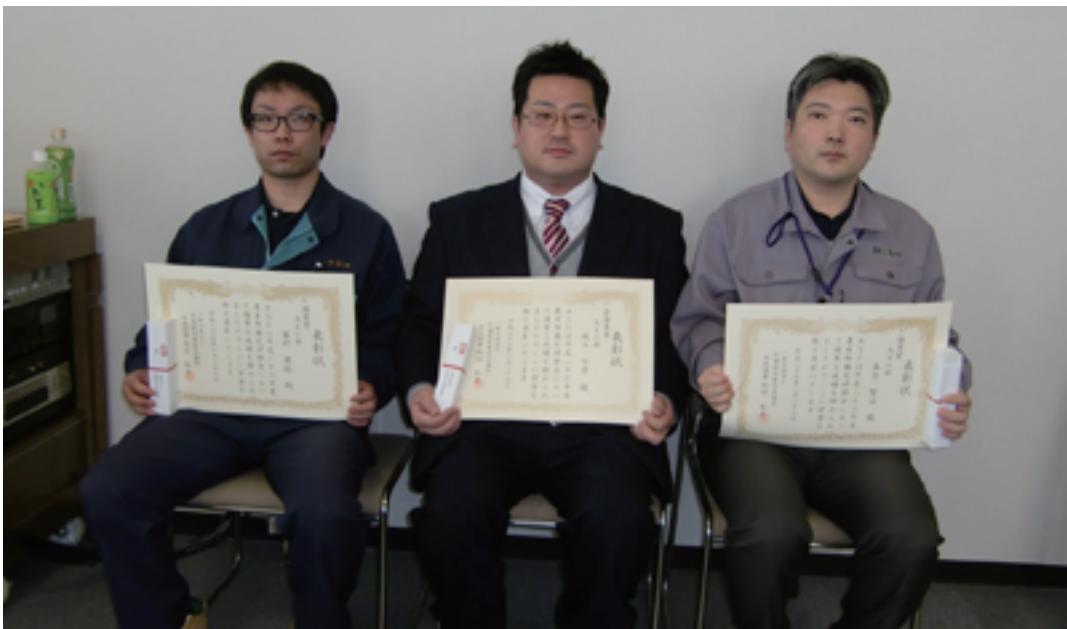
右から 岡部氏、長谷川氏、岩崎氏

<小麦の部>



右から 高橋氏、佐藤氏、村山氏

<大豆の部>



右から 本吉氏、坂上氏、藤村氏

閉会挨拶



事務局長

高橋 幸雄

北海道農産物の信頼確保は検査実施業務に掛かっており、26年度登録検査員831名全員で登録検査機関を担っておりますので、引き続き検査鑑定技術の研鑽にご尽力頂くとともに、昨年より農水省より行政指導を受けています。本会は、検査現場での今後の対応について真価が問われており、本日参加されました皆様には、地域のリーダーとして鑑定技術のみならず、関係法令遵守の徹底と再発防止に向けて、地元に戻られても同僚・後輩への指導的役割及び検査員への期待と責務について提言し、研修会を締めくくりました。